

## Q05a 銀河系中心方向における新たな分子雲複合体の検出

福井 康雄、山本 宏昭、鳥居 和史、水野 範和、河村 晶子、大西 利和（名大理）、他「なんてん」チーム

銀河の中心部は、スターバーストなどの極めて活発な星形成によって、爆発的なエネルギー解放が起きると考えられる。我が銀河系の中心部もそのような領域のひとつであり、過去の爆発的現象の痕跡が種々提案されている。「なんてん」による広範なCO分子雲観測の結果を解析し、今回、新たに活発に大質量星を形成している分子雲複合体を発見したので報告する。

この複合体は、銀経  $0.3 - 0.7$  度、銀緯  $-0.9 - -0.7$  度の範囲に視線速度 (LSR)  $18\text{km/s}$  を中心に分布しており、距離  $8.5\text{kpc}$  を仮定すると総質量は  $10(6)$  太陽質量に近い。主に2つの成分からなり、それぞれ  $(l,b)=(0.55^\circ,-0.70^\circ)$ ,  $(0.55^\circ,-0.85^\circ)$  に中心を持つ。電波連続波源が存在することから (Altenhoff et al.1979) 二成分ともに HII 領域を伴う大質量星形成領域であることが分かる。中間赤外線でもこれらの若い星は検出されており (例 MSX)、近赤外線では吸収として観測されている (2MASS)。以上の結果から、この複合体は既知の SgrB2 に並ぶ活発な星形成領域として注目される。

距離については現時点で不定性はあるが、次の二つの理由からほぼ銀河系中心部の数  $100\text{pc}$  以内の手前側にあると推定される：1) 分子雲の温度が  $30\text{K}$  以上と高いこと、また、2) 中間赤外線放射が北側成分上縁部に付随することから銀河系中心部からの放射源に「照らされている」可能性が高いこと。講演では、他の波長帯との詳細比較を含めて、この複合体の意味を議論する。